

講演次第

開会

13:00～

社団法人 全国市街地再開発協会 総括参与 村岸 明

< 準備 >

1. 平成23年度再開発関係予算案について

13:10～14:00

市街地再開発事業等に係る平成23年度予算政府案等の概要について、わかりやすくご説明いただきます。

国土交通省住宅局市街地建築課 企画専門官 高宮 茂隆 氏

< 休憩 >

14:00～14:10

2. 老朽化した再開発ビルの再整備に関する調査について

14:10～15:00

都市再開発法によって現在の再開発事業の仕組みが整ってから40年余りが経過し、従前の事業制度である市街地改造事業、防災建築街区造成事業による地区を含めると、事業完了後30年を超える地区は、平成21年7月現在400地区弱に及ぶ。これらの地区では建物・設備の老朽化の進行と共に再開発ビルは多くの場合、区分所有建物であり、経年により権利関係が複雑となる傾向にあり、再整備に当たり通常ビルとは異なる課題が多い。市街地再開発技術研究所では、こうした状況を踏まえ再整備の課題や方策を把握し検討の一助となることを目的に、再整備地区のヒアリング調査を行った。調査内容について、わかりやすくご説明いたします。

社団法人 全国市街地再開発協会 市街地再開発技術研究所 総括研究員 高橋 毅 氏

< 休憩 >

15:00～15:10

3. 「ノバティながの」の再生・リニューアルの事例について

15:10～16:00

「ノバティながの」は、南大阪の河内長野市の中心駅、南海と近鉄の河内長野駅前に平成元年に竣工した再開発ビルですが、平成20年12月に核テナントの撤退が決まり、北館の8割が空き床、売り上げが85%減、450人の雇用が失われ、このままでは権利者店舗が孤立し、放置すれば早晩これらの店舗も立ち行かなくなり、駅前が空洞化してしまうおそれがありました。このため、河内長野市と第三セクター、コンサルタントが後継テナントを誘致すべく積極的な活動を行い、3ヶ月後には後継テナントとして食品スーパーを決定、7ヶ月後に仮オープンできました。再生にいたるまでの経過、事業内容などをわかりやすくご説明いただきます。

株式会社都市問題経営研究所 代表取締役 大島 憲明 氏
(NPO 法人再開発ビル活性化ネットワーク理事)

< 休憩 >

16:00～16:10

4. 地域資源を活用した地域活性化について

16:10～17:00

核テナントや公的施設に頼らないで地域経済の環境の変化にも耐えられるようなまちづくりを進めるためには、その地域にある様々な資源を有効に活用していく必要があります。日本政策投資銀行で、長年、政府の政策に沿ったプロジェクトに関する調査や企画立案等に携わってこられた小松氏は、それらの経験を活かしつつ地域経済の環境が厳しい中にもあっても採算が取れるような地域再生のビジネスモデルを創ることを目指しておられます。地域の歴史や文化に根付いた地域資源を活かすプロジェクトを進めてきた経験をお話いただきます。

金沢工業大学 研究支援機構 産学連携室 コーディネーター 小松 俊昭 氏

閉会

17:00～

* 講演内容・時間等が、変更になる場合もございます。